

## No. 2087

### カード摩擦係数測定機

紙の摩擦係数は紙の表面状態を示す一つの尺度です。摩擦係数測定原理は重ねられた同一の試料の上に1kgのウェイトを乗せスライドさせ、サンプル間の静摩擦係数及び動摩擦係数をブッシュプルゲージにより読み取ります。

記録計（オプション）を取り付けることで、静摩擦係数及び動摩擦係数の読み取りが容易になり、また動摩擦力の変化を記録することもできます。



No. 2087

- 試料寸法：180×80mm
- 駆動距離：50mm、自動停止装置付
- 重 錘：1000g、寸法76×76mm
- 駆動速度：90cm/min.
- 電 源：100/110V 50/60Hz 1A
- 外形寸法：560×350×300mm
- 重 量：42kg

## No. 2088

### 静摩擦係数測定機

紙の表面状態を評価する測定値として摩擦係数は1つの特性です。本機は静摩擦係数を簡単に測定する試験機です。

その原理は傾斜駆動板と移動重錘にそれぞれ試料を貼り付け、傾斜駆動板が徐々に角度を上げていきます。角度が増し、試料の摩擦限界範囲を超えると重錘が移動します。その瞬間にセンサが感知して傾斜板を停止させます。その傾斜角度から静摩擦係数を算出します。この時の角度（ $\theta$ ）は $\tan \theta$ に直して目盛が彫刻されていますので静摩擦係数（ $\mu$ ）の値が直読できます。



No. 2088

- 測 定 範 囲：静摩擦係数目盛 0~1.500（最小目盛 0.005）  
滑り角度目盛 0~55°（最小目盛 0.5°）
- 傾斜板速度：測定時 8mm/sec. 復帰時 16mm/sec.
- 試 料 寸 法：A試料 120×250mm（最大）  
B試料 60×100mm（接触面）
- 移 動 重 錘：総重量 1000g
- 参 考 規 格：JIS P-8147-1994、TAPPI T-815 om-01
- 電 源：100/110V 50/60Hz 1A
- 外 形 寸 法：470×290×410mm
- 重 量：16kg

## No. 2089

### 高速紙間摩擦係数測定機

情報化社会の著しい発展に伴い、使用される用紙の種類、用途も広範囲になっております。複写機、ファクシミリ等OA機器においては、著しく高速化しつつあります。従って供給される用紙の適性も、高品質化、中性紙化、コストの低減化、安定化が望まれております。

本機は情報関連機器等で、高速で使用される用紙の紙間摩擦係数を実験室において測定し、取引上におけるクレームの調査、生産管理上での迅速な対応、更には機械、用紙を含めて新製品の開発に貢献するものと確信致します。

その原理は積層された用紙を試料台に置き、最上面の用紙をロードセルと連結したクランプに固定し、任意の錘を乗せ、2枚目以下の用紙を駆動側のクランプで押え、試料台を移動させます。その際に、用紙間に生じる摩擦力をロードセルで検知し、データを記録します。

- 試料寸法：A3、A4、B4、B5
- 試料台寸法：420×420mm
- 試料積層厚さ：最大 25mm
- 試験速度：100～1050mm/sec.
- 復帰速度：15mm/sec.
- 摩擦力検出：ロードセル（容量 50N）
- 摩擦負荷重錘：100～2000g（5種類組み合わせ）
- 電源：3相 200/220V 50/60Hz 10A
- 外形寸法：1100×730×500mm
- 重量：約240kg



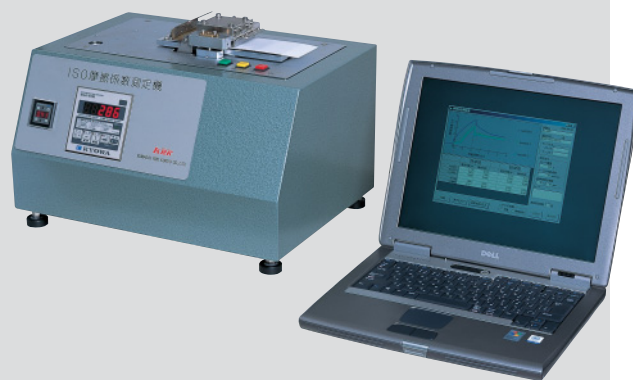
No. 2089

## No. 2090

### ISO摩擦係数測定機

紙の摩擦係数は紙の表面状態を示す一つの尺度であり、その状態が感触や作業性に関連した重要な性質として考えられております。本機はISOに新たに規格された摩擦係数測定方法で、移動テーブルと重錘とに貼られた紙の摩擦測定を3回繰り返して、静摩擦および動摩擦を求めるものです。また静摩擦のピークを得るまでの時間を0.5～5秒の間になるよう初期トルクは非常にゆっくりと与えられる機構になっています。従来の速いスピードでの静摩擦と異なり、紙の表面の繊維間どうしの摩擦力を測定することができます。

- 試料寸法：200×70mm
- 駆動距離：70mm
- 重錘：800±5g、寸法60×60mm
- 重錘の昇降：自動昇降
- 駆動速度：20mm/sec.（オプション 5～100mm/sec.）
- 参考規格：ISO15359-1999
- 電源：100/110V 50/60Hz 2A
- エア源：0.4MPa必要
- 外形寸法：450×370×310mm
- 重量：20kg



No. 2090